

よきよき
環境をつくる



農業と自然との共存を目指して

食を支える農業は自然に支えられています。
環境にやさしい農業を実現するため、環境負荷軽減に努めています。

食の安心・安全 Ecoみらい

顔が見える
声が届く
価値を伝える

商品づくり

消費者やユーザーと生産者が交流会を行い、情報交換を行っています。また、販売促進活動とともに、地産地消の推進、食農教育活動を実施し、地域への情報発信を行っています。

環境に配慮し独自の栽培基準を設定した、「Ecoみらいブランド」のたまねぎ、じゃがいもの生産に取り組んでいます。商品のコンセプトは、「顔が見える商品」「声が届く商品」「価値を伝える商品」。

私たちは「農家の想いを消費者へ」「消費者の想いを農家へ」とつないでいきます。



きたみらい訓子府地区GAP部会では、消費者が直接確認できない農産物の生産工程において、安全管理の「見える化」に取り組み、2019年4月に13戸の生産者がJGAP団体認証を取得しました。

GAPへの取り組み

GAPとは：
GAP(Good Agricultural Practice:農業生産工程管理)。農業現場の「食品安全」「環境保全」「労働安全」「人権・福祉」に関する法令や規範を遵守し、各工程の実施、記録、点検及び評価を行い、継続的な改善を行う取り組み。

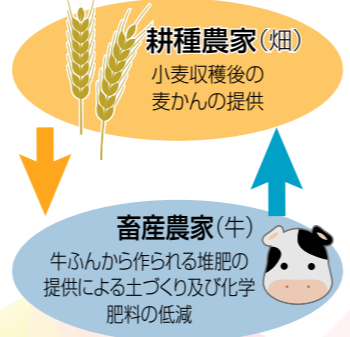
JAグループ北海道畑作物GAP(農業生産工程管理)手法を基に、JAきたみらいの生産体制に合わせたGAP手法を導入しています。また、使用した肥料や農薬についての情報を、広く消費者へ提供することで、顔が見える商品作りを行っています。

循環型農業



農業と環境との調和に配慮し、きたみらい地域には、玉ねぎやじゃがいも、てん菜、小麦など、畑に作物を作付している耕種農家や酪農(牛)を中心とした畜産農家など様々な農業経営の形態があります。

それぞれ必要な量以上は不要となる麦かんや堆肥などを相互利用することで、環境にやさしい農業に取り組んでいます。



グリーン農業への取り組み

農業と環境との調和に配慮した「グリーン農業」では、より「安全・安心」な農産物を出荷するため、化学肥料・化学農薬を最小限または一切使用しない生産方法で栽培しています。生産者自らが様々な基準に基づき生産に取り組んでいます。

有機栽培
化学農薬・化学肥料を一切使用しない栽培

9.90ha
5戸

特別栽培
基準に対し、化学農薬・化学肥料を半分以下に抑えて栽培

165.1ha 68戸 97.7ha 36戸

クリーン栽培
道で定められた基準を基に化学農薬・化学肥料を減らして栽培

65.3ha 20戸 162.5ha 35戸

令和元年実績

環境にやさしい農業へ



環境への負担を軽減するため、化学合成農薬、化学肥料の使用を北海道基準よりもさらに低減(30%~50%)しています。また、良い土をつくるために、堆肥や有機物を活用し、地力の向上に努めています。

玉ねぎ 86.31ha(58戸)
じゃがいも 68.17ha(34戸)

オリジナルの統一栽培基準をはじめ、取扱要領や現品検査基準もきたみらい独自のものを設定しており、こだわりの栽培法によるこだわりの商品として、消費者の方々へお届けしています。

化学肥料の使用にあたり、北海道の施肥基準よりも少ない量でも作物の為に必要以上使用しないよう畑の土のサンプルをとり、土壌診断を行って必要量のみの使用に向けて取り組んでいます。コスト低減はもちろんのこと、環境負担軽減にも努めています。

玉ねぎの廃棄物利用



日本一の生産量を誇る玉ねぎの主産地として、きたみらいでは、玉ねぎをイメージしたオリジナルの制服を着用しています。男性・女性総合職用の上着と女性用のブラウスには、玉ねぎのオニ皮から色素を抽出して染色した草木染色地を使っており、ズボン・スカートなどはそれぞれ、様々な作物が命を育む緑の大地を表現する濃緑色となっています。

玉ねぎをPRし、大量に出るオニ皮を染料として役立てる、環境に優しい取り組みの一つとなっています。



玉ねぎオニ皮 抽出染料